

事業概要シート

施策 0301 文化財の保護・活用・継承

《》の金額 現年度当初・補正予算、前年度繰越額の合計
 ※補正予算要求時は今回の補正予算額を除く
 ※次年度予算要求時は次年度繰越額を除く

事業名	歴史資料館管理運営事業	現状維持	予算額	19,704 千円
事業期間	昭和48年 ~		財源内訳	19,094 千円
根拠法令要綱等	博物館法 大村市歴史資料館条例		国庫支出金	千円
			県支出金	千円
			地方債	千円
			その他	610 千円
			一般財源	19,094 千円

【事業の目的・概要・対象】

市民などに大村の歴史に関する歴史学習や研究の機会を提供する。
 大村の歴史に関する貴重な歴史資料を収集、保存・管理し、その重要性を市民に周知するため、さまざまな情報を発信する。
 大村の歴史の普及や研究のため、大村に関する歴史資料を寄贈、寄託、購入などの方法により体系的に収集し、これを保管・管理する。
 館では収集・整理した歴史資料を活用し、展示や講座等の教育普及活動を通じて地域の歴史の情報発信する。

歴史資料館に 求められる機能	① 魅力ある展示と実物資料提供による公開機能	・常設展・企画展の実施 ・実物資料、デジタルデータの充実と提供
	② 教育普及活動と情報発信機能	・ミライon図書館との連携 ・見学プログラムの作成、講演会、体験講座の実施
	③ 資料の収集、保存・管理機能	・資料の保存・受入強化 ・民間所蔵資料の把握・保存・相談対応
	④ 大村の歴史や資料の調査・研究機能	・資料の調査・研究 ・他地域との情報交換

調査・研究活動

- ・秋特別展に関する資料調査
- ・館所蔵、未所蔵資料の調査・研究
- ・年報等を通じた調査成果の発信

展示活動

- ・秋特別展「近代大村の歴史」
- ・春企画展「郷土史クラブの挑戦」

教育普及活動

- ・郷土史クラブ
- ・公民館講座
- ・郷土史講演会

大村の歴史の周知
↓
 保存と継承
郷土愛の醸成

【背景】

地方創生、郷土愛の醸成が求められる中、地域の歴史の保存継承、情報発信は重要となっている。
 歴史資料館が、その拠点として機能し、市民に周知してもらうためにも、より一層の資料の保存、展示、教育普及活動の強化に取り組んでいく必要がある。

担当課	教育委員会文化振興課（歴史資料館）	課長	今村 明
担当者	山下 和秀	問合せ先	0957-48-5050

事業概要シート

【活動指標】

指標名		単位	R2 (実績)	R3 (計画)	R4 (計画)	R5 (計画)	R6 (計画)
①	開館日数	計画値 日	271	285	285	285	285
②		計画値					

【成果指標】

指標名		単位	R2 (実績)	R3 (計画)	R4 (計画)	R5 (計画)	R6 (計画)
①	入館者数	計画値 人	29,147	30,000	40,000	50,000	50,000
②		計画値					

【予算・決算】 (千円)

事業費は当初・繰越・補正予算の合計額

年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	合計
事業費	6,333	15,790	20,468	19,704	21,000	21,000	104,295
国庫支出金							0
県支出金							0
地方債							0
その他	10	193	1,452	610	45	45	2,355
一般財源	6,323	15,597	19,016	19,094	20,955	20,955	101,940
人件費	8,746	23,471	23,071	23,071	23,071	23,071	124,500
職員(人)	1.06人	2.87人	2.87人	2.87人	2.87人	2.87人	15.41人
時間外勤務(h)	519h	1300h	1100h	1100h	1100h	1100h	6219h
会計年度任用職員(人)							0.00人
フルコスト	15,079	39,261	43,539	42,775	44,071	44,071	228,795

妥当性 (市の関与)	市の施設の維持管理であり、市が行う必要がある。
有効性 (施策貢献度)	歴史資料館は、ミライon図書館とともに、地域学習の拠点であり、展示、教育普及活動は、文化財の保護や地域の歴史情報の発信・理解に極めて有効である。
効率性 (コスト)	年間を通じて、展示会等の情報発信に関する費用を自前で行っていることもあり、全体的に予算は不足気味である。

1次評価	魅力ある館として多くの人に訪れてもらうためには、一定の事業経費は必要である。
2次評価	1次評価のとおり